

同時資料提供

大阪市政記者クラブ
大阪科学・大学記者クラブ
大阪教育記者クラブ
南大阪記者クラブ
関西レジャー記者クラブ

平成 29 年 5 月 10 日
大 阪 市 立 自 然 史 博 物 館
TEL : 06-6697-6222

大阪市立自然史博物館 第 48 回特別展 「瀬戸内海の自然を楽しむ -生き物のにぎわいとその恵み-」 を開催します

大阪市立自然史博物館では、平成 29 年 7 月 15 日（土）から 10 月 15 日（日）まで、特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ -生き物のにぎわいとその恵み-」を開催します。



西日本の中心に広がる瀬戸内海は、外海とは切り離された、全体としては波の穏やかな海です。しかし、そこには 700 を超える島々、海峡、複雑な海底地形があり、さらには潮流を生み出しています。このような環境は、瀬戸内海に豊かな海の恵みと高い生物多様性をもたらしています。沿岸にすむ人々は、古くからその恩恵を受けて暮らしてきました。

大阪市立自然史博物館では瀬戸内海沿岸の博物館・水族館等と連携し、平成 24 年から 5 年をかけて市民参加の観察会や調査会などを行い、多くの情報や標本資料を蓄積してきました。今回の特別展では、私たちが瀬戸内海で見つけてきた多様で魅力的な自然、そして恵みを存分にご紹介します。魚や貝、植物、昆虫など瀬戸内海の様々な生き物の実物標本や、瀬戸内海の海底を立体再現した地形模型、瀬戸内海で盛んな漁業のオリジナル映像、さわって遊べるハンズオンコーナーなど、楽しめる・学べる仕掛けをたくさん用意しました。平成 27 年 9 月に泉南郡岬町に死亡漂着した全長約 7 メートルのザトウクジラ全身骨格標本も登場します。

○プレス内覧会を、開幕前日の平成 29 年 7 月 14 日（金）午後 0 時 30 分より、自然史博物館 本館 集会室および特別展会場で行います。プレス内覧会取材申込書にて前日までにファックスでお申込みください。なお、一般内覧会も午後 2 時より引き続き行います。

○広報用画像、読者・視聴者プレゼント用の招待券をご用意しています。広報用画像申込書、招待券申込書もファックスでお申込みください。

I. 開催概要

1. 名 称 特別展「瀬戸内海の自然を楽しむー生き物のにぎわいとその恵みー」
2. 主 催 大阪市立自然史博物館
3. 会 期 平成29年7月15日(土)～10月15日(日)
※開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
4. 休館日 月曜日(ただし月曜日が休日の場合はその翌日) ※8月14日(月)は開館
5. 会 場 大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール
(花と緑と自然の情報センター2階)
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23
TEL：06-6697-6221 FAX：06-6697-6225
HP：http://www.mus-nh.city.osaka.jp/
地下鉄御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m
JR 阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1000m
6. 観覧料 大人500円、高校生・大学生300円
期間内特別展フリーパス 大人1,000円、高校生・大学生600円
※本館(常設展)とのセット券は、大人700円、高校生・大学生400円。
※中学生以下、障がい者手帳など持参者(介護者1名を含む)、
大阪市内在住の65歳以上の方は無料(要証明)。30人以上の団体割引あり。
※本館(常設展)、長居植物園への入場は別途料金が必要です(セット券を除く)。
7. 協 力 船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」

Ⅱ. 展示構成

<瀬戸内海の自然>

瀬戸内海をとり囲む陸域と海底の地形について、まず地質学の視点から見てみましょう。つづいて、瀬戸内海を構成する自然環境として砂浜、干潟、塩湿地、磯、アマモ場、ガラモ場などを取り上げ、これらの環境ごとに見られる生き物を紹介します。

<瀬戸内海の漁業>

温暖で波の穏やかな瀬戸内海では、昔から様々な漁業が行われてきました。また、近代以降は魚介類をそだてる養殖も盛んに行われています。瀬戸内海の恵みを利用する営みについて、実物の漁具や映像なども交えて紹介します。

<消えた風景>

広大な泥干潟を擁していた岡山県の児島湾や、瀬戸内海の風物でもあった塩田など、生業や産業の変化によって瀬戸内海から消えてしまった風景があります。かつての景観と自然について、各地で継承されてきた貴重な資料とともに紹介します。

<抱える問題と解決に向けて>

自然海岸の減少、水質の維持、貧酸素現象、外来生物の増加など、瀬戸内海の自然は様々な、そして困難な問題を抱えています。その現状を解説するとともに、解決に向けた道筋や取り組みについても紹介します。

<瀬戸内海を調べよう>

多様で豊かな瀬戸内海の自然は、古くから人々の知的好奇心の的でもありました。江戸時代から現在まで、瀬戸内海で行われた様々な調査活動とその成果を紹介します。瀬戸内海を見守るのは最先端の研究だけではありません。みなさんが自然を観察する眼もまた、瀬戸内海を未来につなげるでしょう。

Ⅲ. 主な展示および広報用資料写真・画像（掲載の画像は広報目的でのみご利用いただけます）

※「ザトウクジラ全身骨格標本」の広報用資料写真は後日提供する予定です



①＜瀬戸内海海底地形模型＞

今回の特別展にあわせて、瀬戸内海の海底と陸域の地形の様子を立体的に再現した模型を製作しました。これにより、島がほとんどなく海底が平坦な「瀬戸」や、速い潮流によって深い海底が形作られる「瀬戸」などの地形がよくわかります（水平縮尺 25 万分の 1、横 200cm×奥行き 90cm）。



②＜ハマボウ＞

塩湿地に生えるアオイ科の低木で、7～8 月頃に花を咲かせます。瀬戸内海沿岸に点在していますが、県によっては自生地が少なく、例えば岡山県版レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。開花期の様子を精密に再現したレプリカを展示します。



③＜サワラ＞

瀬戸内海で漁獲される代表的な魚です。春になると産卵のために瀬戸内海へ群れをなして来遊し、秋の終わりに外海に出ていきます。生時の体色を再現したレプリカを展示します。



④＜瀬戸内海海産藻類標本集＞

あるまとまった分類群について、標準的な標本を作成し、「標本集」として集成することがあります。このような標本集は実物で作られた図鑑といつてよいでしょう。1997 年に神戸大学内海域環境教育研究センターが中心となって瀬戸内海に生育する 188 種の藻類標本集が作られ、当館にも寄贈されました。それぞれの種が持つ特徴がわかるように作られた標本は、研究に役立つだけでなく、自然の形態美をも表現するものです。今回、この中から厳選した標本を展示します（資料保存のため会期中適宜入れ替える場合があります）。



⑤<アッケシソウ>

塩湿地に生育するヒユ科の塩性植物です。秋に草体が赤く色づきます（岡山県浅口市寄島）。秋に採取して樹脂に封入した実物標本を展示します。



⑥<養殖マガキ>

マガキは広島県をはじめとして、瀬戸内海各地で広く養殖されており、生産量は全国の70~80%を占めます。沖合にいかだを浮かべ、そこからホタテの殻を海中に吊るし、その殻に着生したカキを育てる「垂下式」で養殖されています。養殖中の状態で保存処理を施した実物標本を展示します。



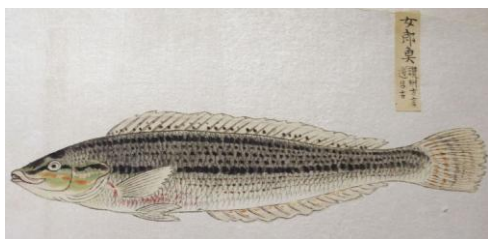
⑦<瀬戸内海の貝屋さん>

貝屋さんごっこができる「瀬戸内海の貝屋さん」コーナーです。瀬戸内海で食用にされている本物の貝を使っています。



⑧<ノリの摘み取り作業>

ノリ養殖は瀬戸内海で盛んに行われている水産業です。網の表面に藻体を生育させ、高速摘採船という特殊な船で網を持ち上げてめぐりこみ、船上のローラーカッターでノリを摘み取ります。（兵庫県明石市・林崎漁業協同組合の養殖場）



⑨<衆鱗手鑑しゅうりんてかがみ>

18世紀中ごろの高松藩主であった松平頼恭（まつだいら・よりたか）は、1762年に魚介類の絵図「衆鱗手鑑（しゅうりんてかがみ）」を作らせ、幕府に献上したことが知られています。衆鱗手鑑はその後長らく行方がわかっていませんでしたが、2000年代に入り、その原本または精巧な転写本の一部と推定されるものが東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所に所蔵されていることが判明しました。今回は、そのうち瀬戸内海で見られる魚類を描いた3幅を展示します（資料保護のため会期中一部入れ替えをする場合があります）。

※写真はキュウセンのメスを描いたもの<比較参考：実物のキュウセンのメスの写真>

IV. 関連行事

<特別展記念講演会「生き物のくらしとつながりからさぐる瀬戸内海の生態系」>

瀬戸内海では、昔にくらべて減った生き物もいれば、増えた生き物もあります。この背景をさぐるには、生き物のくらしや、生き物どうしのつながりに着目する必要があります。このくらし・つながりの視点から調査に取り組まれているお二人をお招きし、その事例をわかりやすくお話しいたします。

- ・日 時：7月15日（土）午後2時～4時30分
- ・会 場：自然史博物館本館 講堂
- ・対 象：どなたでも参加できます
- ・参加費：無料（博物館入館料必要）
- ・申込み：不要、直接会場へお越しください。
- ・共 催：大阪湾海岸生物研究会

演題：「播磨灘の漁場環境変化による漁業生産への影響とその対策」

講師：原田和弘氏（兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター）

瀬戸内海の漁場環境は、かつての汚濁が進んだ時代と比べると改善してきましたが、ノリ生産の不調や漁獲量減少などの問題が生じています。講演では播磨灘を例に、漁場の環境変化が漁業生産に与えている影響を紹介します。

演題：「瀬戸内海の腕足類」

講師：吉松定昭氏（元香川県水産試験場）

腕足類は古生代に繁栄していましたが、現生種は約350種とされます。現在、瀬戸内海にはシャミセンガイの一種を含む2種が生息しています。最近観察例が増加している生息状況の推移を、プランクトン期幼生の調査結果を交えて紹介します。

<自然史学会連合講演会>

瀬戸内海をフィールドとする魚類や藻類などの第一線の研究者が、研究内容のトピックについてわかりやすく講演します。

- ・日 時：8月19日（土）
- ・会 場：自然史博物館 講堂
- ・講 師・演題：自然史博物館及び自然史学会連合のホームページで後日お知らせします。
- ・対 象：どなたでも参加できます
- ・参加費：無料（博物館入館料必要）
- ・申込み：不要、直接会場へお越し下さい。

<その他関連行事>

○6月10日(土) 午後1時～2時30分

自然史オープンセミナー(6月)「瀬戸内海の自然：地形・地質と昆虫」

○9月9日(土) 午後1時～2時30分

自然史オープンセミナー(9月)「瀬戸内海の自然：植物」(予定)

○10月14日(土) 午後1時～2時30分

自然史オープンセミナー(10月)「瀬戸内海の自然：鳥類・魚類」(予定)

<ギャラリートーク>

展示を担当したさまざまな分野の学芸員が、テーマを絞った展示解説を行います。

- ・日時：7月15日～10月14日の毎週土曜日 午後0時30分～1時
- ・実施日と分野：

7月15日(土) 無脊椎動物、7月22日(土) 植物、7月29日(土) 鳥類、8月5日(土) 植物、8月12日(土) 地質、8月19日(土) 鯨類、8月26日(土) 無脊椎動物、9月2日(土) 魚類、9月9日(土) 地質、9月16日(土) 植物、9月23日(土) 魚類、9月30日(土) 昆虫、10月7日(土) 昆虫、10月14日(土) 植物

※分野は変更になることがあります

各行事の詳細は特別展ホームページ、または博物館ホームページのイベントカレンダーにて随時公開していきます。

V. ブロガーの皆様ご招待について

特別展の広報に協力して頂けるブロガーの方 20 名を、開幕前日の一般内覧会、または開幕 3 日間のいずれかに無料でご招待いたします。

○期間

<一般内覧会>

平成 29 年 7 月 14 日（金） 午後 2 時から午後 4 時 30 分まで（午後 1 時 30 分より受付開始）

<開幕 3 日間>

平成 29 年 7 月 15 日（土）～17 日（月祝） 午前 9 時 30 分から午後 5 時まで（入場は随時、最終入館は午後 4 時 30 分まで）

○会場

大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター 2 階）

○参加頂ける方

以下の 2 つの条件を両方とも満たす方

- ①ご自身でブログを開設されていること
- ②ご自身のブログに特別展の紹介記事を必ずお書きいただけること

○申込

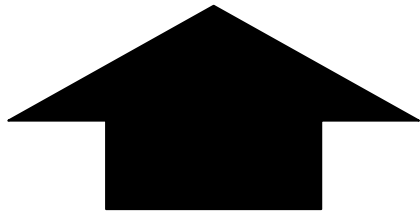
電子メールに「特別展ブロガー招待申込み」と明記、名前、居住地の都道府県名、電子メールアドレス、ブログタイトル、ブログ URL を書いて、平成 29 年 7 月 6 日（木）までに届くように自然史博物館 総務課宛に申し込んでください。平成 29 年 7 月 7 日（金）に抽選を行い、結果を申込者全員にメールにて返信させていただきます。当選者のみ参加方法等の詳細を合わせてお知らせいたします。

○その他

当日参加はできません。必ず申込みをしてください。

○問合せ／申込先

大阪市立自然史博物館 総務課 電話：06-6697-6221 メール：s-nyukansha@ocmo.jp



F A X . 0 6 - 6 6 9 7 - 6 2 2 5

<FAX送信>

送信先：大阪市立自然史博物館
総務課 広報 宛
TEL.06-6697-6222 FAX.06-6697-6225
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23

「瀬戸内海の自然を楽しむ -生き物のにぎわいとその恵み-」 プレス内覧会 取材申込書

プレス内覧会における取材をご希望される方は、下記該当箇所をご記入の上、総務課広報宛にFAXにてご返信ください。

■ プレス内覧会

〔日時〕 平成29年7月14日（金）
午後0時30分～

〔会場〕 大阪市立自然史博物館
本館 集会室 および 特別展会場

- ※博物館通用口からお越してください。
- ※プレス内覧会に引き続き、午後2時より一般内覧会も開催いたします。



博物館通用口

貴社名	
媒体名	
所属部署／ご担当者名	
人数（カメラ含む）	
ご住所	〒
ご連絡先	電話： メール： FAX：



F A X . 0 6 - 6 6 9 7 - 6 2 2 5

<FAX送信>

送信先：大阪市立自然史博物館

総務課 広報 宛

TEL.06-6697-6222 FAX.06-6697-6225

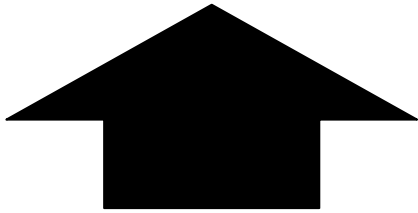
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

「瀬戸内海の内自然を楽しむ -生き物のにぎわいとその恵み-」
取材申請・招待券 申込書

会期中、会場内における取材を希望される方は、下記該当箇所をご記入の上、原則、取材の3日前までにFAXにてお送りください。なお撮影時間につきましては、会場の混雑状況などにより、事前に調整させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

また、貴媒体内での読者・視聴者プレゼントに限り、特別展の招待券を10組20名様分、ご提供させていただきます。なお、掲載媒体を1部（掲載紙・誌、CD-ROM、DVD-ROMなど）お送りいただき、それと引き換えに招待券をお送りさせていただきます。

貴社名	
媒体名	
所属部署／ご担当者名	
取材日時	平成29年 月 日 () : ~ :
人数（カメラ含む）	
ご住所	〒
ご連絡先	電話： FAX： メール：
掲載記事・放送番組名	
掲載日（発行日） 放送日時	
招待券	希望する ・ 希望しない



F A X . 0 6 - 6 6 9 7 - 6 2 2 5

<FAX送信>

送信先：大阪市立自然史博物館

総務課 広報 宛

TEL.06-6697-6222 FAX.06-6697-6225

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

「瀬戸内海の自然を楽しむー生き物のにぎわいとその恵みー」
広 報 用 画 像 申 込 書

- ・ご希望の画像に○印をつけ、下記にご記入のうえ、ご返信ください。
- ・画像使用は本展のご紹介のみとさせていただきます。使用後は、データを破棄してください。(平成 29 年 10 月 15 日(日)まで使用可)
- ・掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で総務課広報宛まで FAX またはメールをお送りください。また、掲載媒体を 1 部、総務課宛にお送り下さい。

No.	画像名	No.	画像名
1	瀬戸内海海底地形模型	2	ハマボウ
3	サワラ	4	瀬戸内海海産藻類標本集
5	アッケシソウ	6	養殖マガキ
7	瀬戸内海の貝屋さん	8	ノリの摘み取り作業
9	衆鱗手鑑		

貴社名・媒体名	
掲載・放送予定日	
所属部署／ご担当者名	
ご住所	〒
連絡先	電話： メール： FAX：